

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	膵体尾部悪性腫瘍切除例における経胃的 EUS-FNA 後に生じる穿刺経路播種の頻度の検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 実施許可 日 ~ 終了 西暦 2029年 12月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	膵体尾部腫瘍 (30 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 実施許可 日 ~ 至 西暦 2029年 12月 31日
研究概要*	<p>膵体尾部に存在する膵悪性腫瘍が疑われる膵腫瘍に対して経胃的に EUS-FNA を行い、外科切除が企図される症例を対象とし、胃粘膜穿刺部位のクリップによるマーキングや定期的な EGD/EUS のサーベイランスを行い、穿刺経路となった胃粘膜に生じた穿刺経路播種 (needle tract seeding, NTS) の発生頻度や発生までの期間、NTS や NTS 以外の病変 (再発所見や他病変) の早期発見における EGD/EUS サーベイランスの有用性、また NTS に関連する因子や NTS が予後に与える影響について前向きに情報を収集し検討することを目的とする。</p> <p>本研究の意義として、以下の点が挙げられる。これまでに NTS 発生頻度について前向きに検討した報告がない点、NTS 診断の精度向上のために穿刺部位にクリップによるマーキングを行うことでより正確に NTS 診断が可能となるよう工夫を行う点、NTS 診断における内視鏡検査 (EGD/EUS) の有用性を示した報告がない点、これらの介入が NTS 早期発見や早期治療介入による予後への影響を明らかにできる点、が挙げられる。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	<p>連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署 (施設・研究室) で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。</p>

別紙第2号様式

研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳
------------	-------------------

\* 記入必須項目